

長崎県 剣道道場連盟

◆加盟団体数 55
◆会長 小島禮三郎 教士七段
◆事務局 〒856-0062
長崎県諫早市小船越60-4
TEL&FAX 0957-26-9947

長崎県には594の島々があり、そのうち法指定有人島は51島である。対馬、杵岐、平戸諸島、五島列島、西彼諸島の5つの地域で人口約13万7千人(平成22年国勢調査)。道場連盟加盟は県内加盟55団体の内、対馬4団体、五島列島6団体となっている。

道場ファイル 31

波佐見弘道館

長崎県剣道道場連盟 登録番号17

◆会長 石部和彦 錬士六段
◆設立 1976年
◆所在地 〒859-3701 長崎県東彼杵郡波佐見町折敷瀬1999 波佐見中学校内
◆連絡先 江添康一
TEL&FAX 0956-85-2498
◆稽古日・時間
火・木 18時～20時
土 9時～12時
第2金曜日、第4土曜日18時～20時
(一般を含めた合同稽古 於・中央小学校体育館)

昭和51年に統合中学校として町立波佐見中学校が開校した際に、地元波佐見町出身であり日本経済界の大きな存在であった今里廣記氏より、学校敷地内に武道場「弘道館」が寄贈された。命名は今里氏、揮毫された額が道場内に現在も掲げられている。初代指導者の故藤本茂記教士七段は当初より道場連盟に加入し、厳しいながらも愛情のある指導で町内の小・中学生の剣道人口を伸ばしてきた。藤本教士没後は、弟子の指導者を中心に熱心な保護者とともに「文武両道」をモットーに指導を続けている。

現在の稽古内容は基本的に大半の時間を使い、最後に指導者と道場OBが元立

ちとなって指導稽古を行なう。中学生はさらに「切り返し×掛かり稽古×切り返し」を10セット、基本打ちを徹底して「中学卒業後に生きる剣道」を目指している。最近では道場OBが再び道場に足を運んでくる数が増え、保護者のママさん有段者も誕生するなど、幼児から中高年齢者までがともに稽古に臨む姿がある。また、毎週行なわれる県立川棚高校の「金曜会」では指導者と一緒に道場生も参加し、小・中・高の繋がりを大切にするとともにさらに上を目指す剣道に励んでいる。

当道場主管の大会には11月の「波佐見少年剣道大会」と9月の「波佐見町少年剣道夏期親睦会」がある。

会員一同



稽古風景



今里廣記氏の揮毫による「弘道館」の額



道場ファイル 32

九州最西端、五島列島の南西部に位置する人口3,637人(H25.3.31現在)の自然豊かな小さな町、五島市岐宿町。昭和33年に初代館長である菊谷留吉(故人)が青少年の健全育成、心身の鍛錬を目的に、岐宿町体育協会少年剣道部を発足させ「礼に始まり礼に終わる」剣道の普及振興に努めた。「剣道は美しくなければならない」を信条とし、特に礼儀に対して厳しく、基本打ちを徹底的に指導した。昭和50年に岐宿雄岳館と改名したが、現在も設立当初の精神は受け継がれ、館長と指導者2名、補助員高校生2名の5人体制により、基本練習に重点を置いて指導している。初心者入会は随時、一人一人丁寧な指導を行なっている。

離島のため県大会出場には1泊2日の日程が必要であり、経費面で年間2～3回の参加が限度である。島内大会は年間5回、基本強化錬成会、日本剣道形講習会にも参加する。昨夏、隣町である三井楽町で開催された「万葉の里剣道大会」では、三井楽少年剣道クラブとともに実行委員会を立ち上げ、島内だけでなく島外からも初めてチームを募り盛大に開催した。島外道場も参加する唯一の大会であり、今年も引き続き島外からの参加を募集して、交流人口の拡大に向け準備を進めている。

岐宿雄岳館

長崎県剣道道場連盟 登録番号54

◆館長 山田新二 五段
◆設立 1958年
◆所在地 〒853-0701 長崎県岐宿町岐宿2301番地 岐宿武道場(公設)
◆連絡先 山田新二
TEL&FAX 0959-82-1278
◆稽古日・時間
毎週:月・水・土 午後5時～午後7時
幼児から一般を対象

万葉の里剣道大会



稽古風景



会員一同

